

熊大通信

vol. 59
2016 WINTER

特集II

熊本大学 授業開放
熊大はあなたの「学びたい」を応援します！

特集I

熊大生今昔
五高と熊大、それぞれの学生生活



熊大通信

vol. 59

2016 WINTER

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 熊大生今昔
—— 五高と熊大、それぞれの学生生活
- 11 研究室探訪 地層は、地球の記憶の宝庫
タフな研究生活を支える壮大なロマン
尾上哲治研究室
- 13 特集Ⅱ 熊本大学 授業開放
熊大はあなたの「学びたい」を応援します！
- 15 国際交流 文部科学省「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」で
熊大生が世界へ羽ばたく
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

旅する熊大／

熊大ボート部は明治28(1895)年、第五高等学校端艇部として誕生しました。その翌年、夏目漱石が五高へ赴任し、第2代の端艇部部長に就任。ボート好きの漱石は、五高の先生たちの対抗試合に出場し、自分でもボートを漕いだといわれます。ボート部の練習場は、五高時代も今も、江津湖です。

熊本大学広報誌 熊大通信

* 皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

[発行] 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007
sos-koho@jim.kumamoto-u.ac.jp

[編集] 熊大通信編集委員会

大日方信春／委員長 法学部
大野 龍浩／文学部
松永 拓己／教育学部
岡本 洋一／大学院法曹養成研究科
光永 正治／大学院自然科学研究科
緒方 公一／大学院自然科学研究科
谷口まり子／大学院生命科学研究部
首藤 剛／大学院生命科学研究部
田中 尚人／政策創造研究教育センター
西川 洋子／マーケティング推進部広報戦略ユニット

[制作] 株式会社 談

表紙／五高生のファッションといえば、マント姿に下駄履き、
かつて五高生が闊歩した場所を、今、熊大生が行き交います。



①下駄履きでムカデ競争をする五高生。開校記念日の運動会の風景②教育学部の体育祭風景。種目と服装は変わりましたが今も昔も学生にとって楽しいイベントです③④九州日日新聞社（現・熊本日日新聞社）前で氣勢を上げる五高生の街頭デモンストレーション（大正15年頃）。この場所は現在の熊日びふれす広場付近です⑤学び舎の前でマント姿もりりくたす五高生たち⑥大勢の市民が駆けつけて応援していた五高七高対抗野球試合は、現在も熊本大学、鹿児島大学との間で続けられています⑦本特集で対談した五高卒業生の福井孝一さんと現役熊大生の片橋匠さん（五高記念館の前で）⑧街頭デモンストレーション（昭和8年頃）⑨デモンストレーションが行われたのは、現在の辛島町、サンロード新市街入り口付近といわれます



熊大生今昔

五高と熊大、それぞれの学生生活



かつての五高生の姿、そして、現在の熊大生の姿を通して、伝統が息吹く学びの場としての熊本大学をお伝えします。

秋月教授が育んだといわれるのが、「剛毅木訥」の校風です。五高生は、飾らず、真摯に勉学にスポーツに励み、時に羽目を外して若いエネルギーを発散させる自由闊達な日々を送っていたと聞きます。今、熊大生たちは、とりまく環境や社会状況こそ変わりましたが、さまざまな活動に真摯に取り組むその姿勢は、五高時代と変わりません。

第五高等学校は、明治20（1887）年開校し、昭和25（1950）年に最後の卒業生を送り出しました。その間、物理学者の寺田寅彦、内閣総理大臣の池田勇人、佐藤栄作、劇作家の木下順二、万葉学者の犬養孝など、数多くの人材を輩出しました。教授陣もまた、文豪夏目漱石をはじめラフカディオ・ハーン、そのハーンが敬愛したという元会津藩士・漢学者の秋月胤永などが名を連ねていました。

コーディネーター
熊大通信編集委員長 大日方 信春

はじめに
新興の気を負い、
伝統が息吹く「学びの場」

熊本大学の前身の一つに第五高等学校があります。

すばらしい教授陣のもと優れた人材を輩出した五高の歴史は、今も熊大キャンパスに息づき、当時の学舎を保存した五高記念館で体感することができます。

今号では、五高の伝統を受け継ぎながら今の学生生活を充実させ、未来へと向かう熊大生の姿を特集します。

【第一章】五高卒業生×現役熊大生 対談 P5-6

【第二章】受け継がれる「飾らない行動力」と新しい風
—— 社会の中で、成長する熊大生 P7-9

【第三章】留学生五高記念館ボランティアガイドが語る、熊大の魅力
—— 語り継がれる歴史は、海を越えて P10

※注 第五高等学校とは
明治19（1886）～20（1887）年、全国を5つの区に分け各区に1校ずつ開校した高等中学校。明治20年熊本に開校されたのが第五高等中学校です。明治27（1894）年、第五高等学校に。その役割は中学校を卒業して帝国大学へ入学するまでの3年間、語学や一般教養を学ぶ高等教育機関でした。卒業生のほとんどは帝国大学へ進学。旧制の高等学校は、日本を担う人材養成の場でもありました。

五高卒業生×現役熊大生

対談

自由な校風と飾らない剛毅木訥
の精神で知られる第五高等学校。
その卒業生と現役熊大生、時を隔
てて青春を過ごす二人が、熊大の
キャンパスで出会いました。

NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」のロケにも使われた五高記念館の復原教室



時代や価値観は変わっても 今こそ受け継ぎたい五高魂

片橋 今、将来を考えると物凄く不安になって焦り、つい目の安定に飛びつきたくなくなってしまいます。何だかんだで夢や冒険よりも安定を優先させるべきなのか。でも、大学時代を就職のために過ごし、社会に出たら老後の貯金のために働きやがて死ぬ。そんな一生で、一体何になるのか。

福井 今の若い方々は、学問やスポーツに自由に没頭できる時期が少なくて気の毒だなと思いますね。

片橋 良くも悪くも、地方の学生はおとなしいと言われる。考えが最初から現実的すぎて小さくまとまってしまってお礼口さん。夢や希望を持ちづらい時代なのだと思います。福井 私の時代は、戦争の影響で価値観がガラリと変わりましたよ。それまでは「これが伝統だ」で済んでいたストームのようなバカ騒ぎが、軍隊帰りの連中にとっては誠に幼稚で野蛮極まりない慣習になったわけですよ。

片橋 「ストーム」とは、ふんどし二丁でバケツを持って、寮生が別の寮に押し掛けるという…。
福井 そうです(笑)。でもここで過ごしているうちに、自分



福井 孝一(ふくい こういち)さん
第五高等学校文乙類1949年卒業。広島県立誠之館中学校(現在の広島県立誠之館高等学校)から海軍兵学校へ進み、五高へ入学

たちもなんとなくそうなっていく。これが伝統の力というものでしょう。

片橋 五高の伝統といえは「剛毅木訥」ですね。

福井 剛毅とは意志の強さ、木訥とは身辺を飾らないという意味です。先輩から必ず言われたのが「バカになれ」「小利口な人間になるな」。決して上辺だけを取り繕うなどということでした。

片橋 こんな時代こそバカになれ、出る杭が必要だ、などとよく言われますが、現実には周囲の抵抗が根強いのでなかなか大変です。五高時代に許されていた自由な雰囲気、ぜひ一度感じてみたいですね。

福井 熊本市民も五高生を大事にしてくれていました。いたずらにしても、黙って許してくれるような。それから、先生たちが偉大でした。五高出身、五高のために生涯を捧げた先生方のおかげで、五高生活とはこういうものだと自然に身についたのですよ。



五高陸上競技部の友人たちと福井さん(前列中央)。昭和22(1947)年度全国インターハイ東京大会で、400mリレーで第1走者を務め、見事、全国優勝を果たしました

日本を動かす逸材を輩出した五高

片橋 一年生の講義で、建築や教育、時代背景など、色々なアプローチから五高を学びました。最初は「赤レンガの建物が美しいな」くらいしか感じていませんでしたが、日本を大きく動かした人々がここで学んでいたことに驚きました。

福井 五高は、大きく3つの時期に分かれるのですよ。明治大正期、いわゆる中産階級以上の出身者でエリート意識をためらいなく持てた人たちの時代。次に、昭和に入り戦争の色が濃くなり、いずれは戦場へと考えながら必死に勉強した時代。そして我々、戦後のいわゆる焼け跡闇市派ですね。
片橋 福井さんの時代は、どのような学生生活だったのですか。
福井 食べるものも生活物資もない。停電はしょっちゅう。そんな中、ろう勉と称して粗悪なろうそくの明かりで勉強しましたね。

片橋 大変な状況だったのですか。
福井 でも、とても魅力ある学生生活でした。私は江田島の海軍兵学校にいて、終戦で五高に編入したのです。全てが命令の軍隊生活から、自由奔放な五高生活へ。あまりにも面白くて、わざと留年して3年半通いました。後先も考えずにね。若かったのですよ(笑)。

片橋 五高の歴史を学ぶと、その自由さがとても羨ましく思います。

福井 旧制高等学校と、全国に7つあった帝国大学の收容人員はほぼ同じ。だから進学、就職の心配が一切ない。全く自由な3年間でした。文化庁長官になった三浦朱門氏(旧制高等学校出身)は「高等学校は日本帝国最大の寶沢品」と言いました。今は、時代がそうした存在を許しませんね。



片橋 匠(かたはし たくみ)さん
工学部マテリアル工学科4年。静岡県出身。高校物理の先生の影響で現在の学科へ。エコプロセッシング研究室所属。金属の精錬・凝固方法を研究。

片橋 福井さんは、今の学生に何か伝えたい事はありますか。
福井 熊大は五高の伝統をもとに作られた大学だという誇りを、もつと今の学生さんに持つてもらいたいですね。かつて非常に優れた先輩たちが学び、日本を大きく動かす人材を輩出した学校であること。その伝統を引き継いでいる意識を持つてほしいと思います。

片橋 五高には、市民を巻き込む部活動もあつたと聞きました。先生や学生、先輩後輩が関係なく一つになれる。そうした濃密な人間関係からの学びが、時代を変える原動力になったと思います。

福井 熊大の前身である五高は、並の学校ではなかった。学生さんには学力どころではなく、五高の精神そのものをしっかりと受け継いでほしい。

片橋 私は、五高卒業生の寺田寅彦を尊敬しています。彼は物理学者でありながら、俳句や随筆に優れ、バイオリンにも夢中になった。理系の魂を持って、文系や芸術も楽しみながら知的に学ぶ姿勢に感銘を受けました。今の私たちが、例えば専門が理系でも、文系の先生にお会いして心理学の話をするなど、色々なことができます。かつての五高生のように、自分と異なる人たちから学び、時代に流されない根っこを大らかに培っていきます。



特集I
熊大生今昔
第二章

受け継がれる「飾らない行動力」と新しい風

社会の中で、成長する熊大生

今も昔も変わらないことの二つが、五高生や熊大生と社会との関わり。市民の方たちが五高七高對抗戦やボートレースの応援に駆け付け、真剣勝負に挑む五高生に熱い声援を送りました。今も熊大生は、地域にひらかれた様々な取り組みを企画運営しています。



五高七高對抗戦野球試合の応援台戦 (大正15年頃)



文科理科対抗で行われたボートレース (昭和10年頃)



弁論大会では標題に「剛毅木訥」の文字が見える (昭和10年頃)

市民に温かく見守られて、時に羽目はずした五高生

大正時代、五高と鹿兒島の第七高等学校造士館は毎年五高七高對抗戦を行っていました。その応援には市民も駆け付け、熱狂的な応援台戦が繰り広げられました。2007年にはこの對抗試合を題材にした神山征二郎監督映画「北辰斜にさすところ」が公開されています。昭和になると文科理科対抗ボートレースが開催され、試合前には士気を上げる街頭デモンストレーションも行われました。若いエネルギーを発散させる五高生を市民は温かく見守ってくれていました。

現在、黒髪キャンパスでは「紫熊祭」、大江キャンパスでは「蕃滋祭」、本荘九品寺キャンパスでは「本九医学祭」と、それぞれ学園祭が行われています。

伝統の行事を大切にしたい企画をはじめ、日頃の地域との連携活動をもとにしたものや、初めての試みまで、実行委員のメンバーたちは、キャンパスごとに学部の特徴を活かしながら、地域の人に喜んでもらえる学園祭を企画しました。



五高では1年生は全寮制、暑い日も寒い日も共に暮らし友情を育んでいた

ほんきゅうい がくさい 本九医学祭



生きた実験動物や幹細胞を展示した「Hasseiって何です?」



電気メスや胃カメラなどを使っての手術体験



第21回 (2015年)
本九医学祭実行委員会 副実行委員長
坂田 成美さん
医学部医学科2年

将来役立つ、学生ならではの
交流と発信の場になる本九医学祭

医学部の学園祭「本九医学祭」は、2015年度2年ぶりの「復活」でした。「高校時代生徒会に入っていた私は学園祭をやりたいと、先輩に働きかけました」と副実行委員長の坂田成美さん。実行委員には1、2年生が参加してくれ、忙しい中、時間のやりくりをして開催へときぎつけました。今回は、学術発表や活動発表のほかに、ナース体験や手術体験、サバの寄生虫を取りだす寄生虫ワールドなどを実施。また、医学部キャンパスにある発生医学研究所の企画として、実験動物や幹細胞を展示する「Hasseiって何です?」を開催しました。

「地域の方々へ発信し交流することは、私たちが将来、医師として一般の方々と相手にする時に、必ず役に立つと考えています」と坂田さん。企画者にとっても参加者にとっても、意義深い学園祭です。

「第二のオープンキャンパス」
蕃滋祭で薬草や薬学への興味を

薬学部の大江キャンパスで行われる蕃滋祭は、伝統の薬膳料理提供や薬草園ツアーが特徴です。加えて、今回は、新しくスタンラリーなども企画しました。蕃滋祭は、第二のオープンキャンパスといった位置付け。来場者は、模擬授業や実験を体験できます。実行委員会広報担当の江藤比華留さんが今年の企画意図を説明してくれました。今回の公開実験のテーマは、皮膚病に効く漢方薬作りでした。「体験を通して、薬が開発されて使われるまでには大変な時間と労力がかかります。また、研究者の思いが詰まっていることを分かってもらえれば」と江藤さん。

蕃滋祭は、薬学部進学を考えている高校生には、薬が持つすごさや薬を研究する意義に触れもらえる一方で薬草や薬学に興味がある一般の方にも楽しんでもらえる催しとなりました。



第5回 (2015年)
蕃滋祭実行委員会広報担当
江藤 比華留さん
薬学部薬学科3年



蕃滋祭名物、薬草園を案内付きで見学する薬草園ツアー



やけどなどの皮膚病に効く漢方薬「紫雲膏」を作る公開実験

ばんじさい 蕃滋祭



大学院自然科学研究科博士後期課程
産業創造工学専攻3年
陳 安苒(チェンアンビン)さん

大学院社会文化科学研究科博士前期課程
現代社会人間学専攻1年
魏 郁珊(キイクサン)さん

私には英語を母国・台湾で学びました。日本においても練習を重ねれば英語力は磨けます。熊大の日本人の後輩は、最初私と話すことにとっても緊張していたみですが、今では英語でプレゼンもできるようになりました。熊大の学生

私は学部時代にも熊大に1年間留学し、再び大学院で学ぶために戻ってきました。実はラフカディオ・ハーンが大好き。ハーンは熊本をあまり好きではなかったと伝えられますが、私は2度も留学したくらいですから、熊本を気に入っています。現在、五高記念館のボランティアガイドをしており、教室に入りハーンがここで学生の英文を添削したんだと思うと感動します。家族や友人が熊本に来た際は、私がボランティアガイドを務めて、五高を案内しました。せっかく2度も熊本で学ぶことができたので、私は、これからもつ



五高記念館ボランティアガイドを育成する講座の様子



特集I
熊大生今昔
第三章

留学生五高記念館ボランティアの魅力

語り継がれる歴史は、海を越えて

500人を超える留学生が在籍する熊本大学。キャンパスを歩くと、さまざまな言語に出会うこともあります。留学生の中には、外国から訪れたお客様に五高記念館の案内ボランティアをしている学生もいます。五高をこよなく愛する2人に、熊大の魅力をお聞きしました。

取り組むことに情熱を。

熊大の歴史が教えてくれた

陳 安苒(チェンアンビン)さん

日本が戦後復興できたのは、すべてにまじめで、教育に熱心だったから。五高記念館のボランティアガイドをしていて、五高の歴史からそれを学びました。当時の学生たちは、自分は何に興味があるのか、自分を何に捧げるのかを常に考えていて、私も熊本大学での学生生活の中で、研究をするのにこの哲学を忘れないようにしています。何かに取り組むなら、それに情熱を捧げるべきだということを教えられました。

熊本を気に入る、2回目の留学

魏 郁珊(キイクサン)さん

私たちは、この歴史あるキャンパスで学べるのが熊大生の特権であることをもっと思っていてほしいです。

海外からのお客様に 五高記念館を案内

五高記念館では、2013年度から外国語で五高記念館を案内するガイドを養成する「外国語ガイド講座」を開設。五高の歴史や建築を学んでもらい、受講修了後は海外からの来賓などへのボランティアガイドを務めてもらいます。

紫熊祭



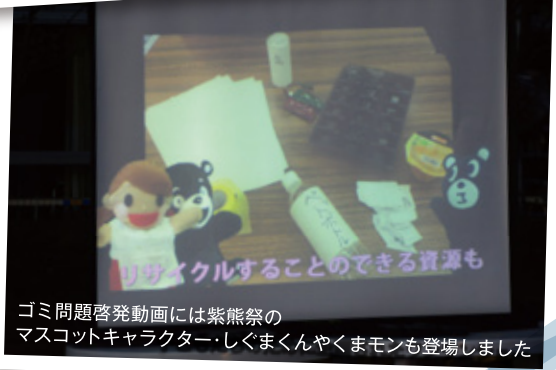
ゴミ出しルール徹底の取り組みを続けてきた実行委員会へ、自治会長さんから表彰状が渡されました



大地震で被災したネパールへの支援を呼びかける「フレイ・フォー・ネパール」



ネパールへの支援メッセージがびっしりと並びます



ゴミ問題啓発動画には紫熊祭のマスコットキャラクター・しぐまくんやくまモンも登場しました

地域社会と手を携えてエコ活動 学園祭に「新たな風」を呼ぶ

黒髪キャンパスの「紫熊祭」では、地域の人のつながりを大切に、さまざまな世代の人に喜んでもらえるもの、社会貢献できるものなど多彩な企画が実施されました。

紫熊祭実行委員会は、黒髪地区の自治会や熊本市クリーンセンターと合同で熊大生のゴミ出しマナー改善に取り組んできました。ゴミ問題解決のためのワークショップを市民とともにしたり、啓発の動画も制作しました。ステージイベントでは、地元の人を招いてゴミ出しルールをテーマにクイズをしたり、制作した動画を上映しました。さらに、この取り組みに対し実行委員会が自治会から表彰を受ける一幕もありました。委員長の檜枝大地さんは「学園祭を通して地域と交流しようという活動は一昨年から始まり、受け継がれているものです。これからも大切にしてほしい取り組みです」。



第4回(2015年)
紫熊祭実行委員会 委員長
檜枝 大地さん
理学部理学科3年

社会貢献や初めての子ども向け企画 実行委員は組織づくりの勉強にも

エコ活動のほかにも、ブースでは社会貢献につながる企画を実施しました。2015年4月の大地震で大きな被害を受けたネパールへの募金活動「フレイ・フォー・ネパール」では、単に募金してもらっただけでなく、応援メッセージを書いたもらいそのカードを張り付けてパネルを完成させるという、心のこもった企画としました。檜枝委員長は「今年は高齢者から親子連れまで楽しんでもらえる企画を考えました。ワンワンショーやヒーローショーなど、初めての試みで勉強になりました」と話します。

一方、副委員長の田中省伍さんは実行委員の活動を通して組織づくりを学んだと話します。「今年の実行委員は232名。広報からボランティア活動まで一年中忙しく活動し、丸となって紫熊祭を迎えるいい雰囲気ができ上がりました。たとえば意見が合わなくても、同じ目標で考え同じことに取り組まないといけない。実行委員会の仕事を通じて人間的にも成長できました」。



第4回(2015年)
紫熊祭実行委員会 副委員長
田中 省伍さん
工学部マテリアル工学科3年

研究室探訪



地層は、地球の記憶の宝庫 タフな研究生生活を支える壮大なロマン

恐竜時代の始まりにも 隕石衝突で大量絶滅があった!

地球の45億年の歴史の中で起こる、生物の大量絶滅。絶滅がなぜ起こったのか、絶滅後に生物はどう進化したのか。地層を見ることでこれまでの地球の自然環境の変化と生物の進化を探る研究をしています。この話すのは、尾上哲治准教授です。

「恐竜の絶滅の原因は巨大隕石の衝突とされています。隕石がぶつかると、隕石の塵や、ぶつかった場所の岩石の破片が地球上に飛び散り、火山灰のように降ってきます。それが層になったはずが2ミリほどの場所を探し当て、調べます。尾上研究室が扱う化石は、基本的には海中のプランクトンなどの微化石。「地層の上の化石が全然違うと大量絶滅があったこと

がわかるし、地層を化学分析して得られる当時の海水の情報から、衝突後の温暖化や寒冷化など環境変化もわかります。」

実は恐竜時代の始まりの時にも大きな隕石が衝突しています。尾上研究室は岐阜県と大分県の地層調査から、世界で初めて衝突の痕跡を明らかにし、2013年に英科学誌に発表しました。「もし恐竜時代前の大量絶滅がなかったら、当時地球上に君臨していた爬虫類と哺乳類を合わせたような生物がもっと進化して、今の人類の君臨はなかったかも」と尾上准教授。壮大なロマンを感じます。

誰もやってなかったことをやり、 誰も知らないことを知る

フィールドは海外にもおよびます。衛生環

境の悪い中で寝起きし、ジャングルを一日10kmも歩くことも。「熊大生は馬力があります」。人が入らない、登山レベルを超えた所にも出かけるそうです。「地層を見ても最初はどうすればいいかわからない。でも慣れてくると、地層の厚さを計り、鉱物を調べ、化石の識別もできるようになる。成長を感じるし、ウンチクを語れるようになれば、なかなかのやつになったな、と。」

流行に乗る研究で論文を書くこともできませんが、「誰もやってなかったことをやり、誰も知らないことを探す、そんな姿勢を大切にしています」。現在卒業論文に取り組む学生は、宇宙から降ってくる宇宙塵の研究を行っています。「降ってくるのは、一年間に、1平方メートル当たり一粒。その研究が何になるのかと言われるかもしれませんが、もしかしたら2億年前に恐竜が見た流れ星のかけらを手にするわけです。おもしろい研究だと思います」。今後は地球の地層から、昔の太陽系の出来事を知る研究にも力を入れていくそうです。

lab's data

【尾上研究室テーマ】



- 研究テーマ
地球と生命の歴史
- 修論・卒論テーマ
・巨大隕石の衝突と生物の絶滅
・過去の地球の降ってきた宇宙塵の研究

- ・過去の海洋環境の時代変遷に関する研究
- ・プランクトンの化石から探る生命進化

□メンバー

尾上哲治准教授、学部4年生2人、修士2人、博士1人

□OB・OGの進路

石油関連企業、地質コンサルタント、教員、研究者など

Interview



理学部理学科4年 三浦 光隆さん(左)

宇宙塵の研究をしていて、誰もやっていないことをやることにロマンを感じます。先輩たちの情熱や意欲はすごくて、サンプリングも考えられないくらい量を集めてきます。そんな先輩に見捨てられないように、がんばっています。

大学院自然科学研究科博士前期課程理学専攻1年 富松 由希さん(中央)

大分県の津久見から、故郷の佐伯にかけて、マンガンを含んだ鉱山を調査しています。地層を見て、昔の地球規模のイベントを知ること醍醐味を感じます。今は国内だけなので、いずれ海外と関連付けて研究を広げていきたいです。

大学院自然科学研究科博士後期課程理学専攻2年 山下 大輔さん(右)

地層から過去の地球の磁場を知る研究に取り組んでいます。昔の地球の出来事や、化石が時代ごとにどう変わっていくかを調べています。尾上研究室は先生や先輩・後輩の仲が良く、気楽な雰囲気が魅力。みんながんばり屋なのが刺激になります。

密着! 尾上研究室

日々の実験やミーティングのほか、学生生活の思い出づくりも満載の研究室の毎日をご紹介します。



2015.8
オーストラリア北西部のヒルバラとよばれる地域には、30億年を超える真っ赤な地層があります。生命の起源を探るべく地質調査を行いました。



2015.7
イタリアシチリア島の海岸には白色の地層がみられます。4年生の倉成君にとって初の海外調査。彼を待ち受けていたのは暑さとの戦いでした。



2015.4
大分県津久見市の山中。ヘルメットにハンマー、フル装備で沢を登っていき地質調査をします。行く手を阻む滝の前で記念撮影。



2014.11
アメリカデスバレー国立公園にて。修士2年の曾田君は、夜は極寒となるデスバレーでキャンプ生活を送り、さまざまな時代の地層を見て回りました。



大分県津久見市から採取した約2億年前の「チャート」という岩石

授業開放②

工学部 生体情報システム

新たな研究成果がプラスされ、毎年受けても新鮮な講義



村山 伸樹 教授

「私たち人間の日常生活で起こることが、なぜ起こるのか、脳科学で説明する講義です。受講生の方はとても熱心に受講されていますね」



米原 悦子さん



荒木 眞治さん

いろいろな感覚情報が脳にどのように運ばれ、どのように情報処理されるのか。工学と医学が融合したような講義を受講しているのは、米原悦子さんと荒木眞治さんです。「以前、医学部精神科の講義を受講したのですが、理解できていないことがあり、今回この講義を受講しました」と米原さん。荒木さんは、「実は私は、病気になることがきっかけ。免疫学など生体防御について興味を持ち、今回も受講を決めました」と話します。

「わかりやすく飽きさせない講義と研究からわかった新しいプラスアルファが学べるところが村山先生の講義の魅力です」と米原さん。脳神経は体全体を動かす機能であり、システムを理解することで病気を理解できると米原さんが語ると、「いくつになっても、学問する意志があればどこでも学べます。専門知識がなくても分かりやすくして楽しめます」と荒木さん。学ぶ気持ちにさえなれば、参加できる道は開かれています。

授業開放③

フランス語Ⅲ-2

難しいからこそやる気を刺激される



畑 亜弥子 講師

「学生にとってレベルの高い内容なんです。皆さん長年受講されていて文法へのこだわりもあり、学生たちにはいい刺激になっていると思います」



大谷 以久美さん



尾上 静子さん

しつとりと秋雨の降る朝、始まったのはフランス語の授業。17世紀のフランス文学を原文で読むという内容で、学生たちに交じり6人の受講生が難しい翻訳に取り組んでいました。その中のお一人、尾上静子さんは「受講の大きな理由は、好きだから。いつかは読みたいと思っていたフランス文学に取り組みしています」。大谷以久美さんは、「大学生の頃は英文科で、一般教養でフランス語を学びました。英文科で原書を読んでも、いつかはフランス語の原書を読みたいと思っていたんです。フランス語の響きが好きなんですよね」とこぼります。

「大学の正規の授業であることが最大の魅力。一般の受講生がいてもレベルの高い授業をしていただけるのでやる気が出ます」と尾上さん。大谷さんは「学生さんと一緒に講義で刺激になるし、受講していると学生の頃の気持ちのままになれます」。いきいきと語る姿に、充実の毎日がうかがえます。

平成28年度前学期の受講生募集は、平成28年3月頃に始めます。

パンフレットご希望の方、お問い合わせはこちらまで！

熊本大学マーケティング推進部
地域連携ユニット
manabou@jimu.kumamoto-u.ac.jp

TEL.096-342-3121
FAX.096-342-3239

※「授業開放」受講は単位の認定はありません。研究生・科目等履修生に関する問い合わせは、学務ユニット☎096-342-2719、社会人特別選抜についてのお問合せは、入試ユニット☎096-342-2146までお願いいたします。



熊本大学政策創造研究教育センターのホームページでは、授業開放科目一覧のほか、公開講座、無料の講演会やセミナーの情報を掲載していますので、チェックしてみてください。

授業開放①

薬学部 免疫学

教員にとっても受講生にとっても得るものが大きい授業開放



首藤 剛 准教授

「一般の受講生の方がいると、自分の講義が一般的に通用するのかが客観的に見ることが出来ます。また、受講生の方には生涯学習という尊敬すべき面を感じます。自分もそうありたいですね」

「首藤先生の同じ講義が実は2回目。常に一番前に座るでしょ」とニコリ。図書館で授業開放のパンフレットを見たという竹之内さんは、「専門主婦だと社会とのかわりが少ないんです。それで、講義を受けてみたいと思いました」。

朝一番の首藤剛准教授による免疫学の講義。薬学部2年の学生たちでいっぱいになった教室の中に、瀬口章さん、藤通子さん、竹之内智子さん3人の姿がありました。「年を取ると免疫力が低下しますよね。そもそも免疫って何だろうと興味湧いて、文系出身の門外漢ですが、この講義の受講を決めました」と語るのは瀬口さんです。もともと生薬に興味があったという藤さんは、首藤先生の同じ講義が実は2回目。常に一番前に座る「首藤ファン」で、「説明が丁寧でわかりやすいし、声もすてきでしょ」とニコリ。図書館で授業開放のパンフレットを見たという竹之内さんは、「専門主婦だと社会とのかわりが少ないんです。それで、講義を受けてみたいと思いました」。

学びはきっかけ。
新しい世界の扉が開く

本気で勉強する
おもしろさを実感

「今日は全14回の講義の中で、一番重い部分。難しかったんじゃないですか」。首藤先生が声をかけると、3人は「本当に」と苦笑い。「免疫学には家庭医学の基本的内容が含まれています。人間の体の仕組みのすごさだけでも感じてもらえれば」と話す首藤先生に、3人は「それはもう、いつも感じていました」と大きく頷きました。

瀬口さんは「私は理解できなくても、いいんじゃない？という気持ちで来ているんです。でも講義を受けるたびに知識が積み重なっていくので、本気で勉強をするおもしろさを感じます。知的好奇心が満たされますね」と目を輝かせます。藤さんも「ワクワクした気分になれるし、朝一番の講義のおかげで規則正しい生活になりました。それに、年齢を重ねているからこそ、学生とは違う受け取り方で免疫学を学べます」。社会との接点が増えるし、現状から抜け出すステップアップにもなります。こないない制度を利用しないなんて、もったいない」と話すのは竹之内さんです。一度社会に出たからこそわかる、学ぶおもしろさや学べることへの感謝が、3人の言葉にあふれていました。

熊本大学 授業開放

熊大はあなたの「学びたい」を応援します！

熊本大学では様々な生涯学習の機会を提供しており、学生と一緒に講義を受ける「授業開放」もその一つです。本年度は教養科目、各学部専門科目、大学院科目の139科目が開放され、10代から80代の方まで191名が受講しました。1科目から気軽に受講できます。



左から、瀬口章さん、藤通子さん、首藤剛准教授、竹之内智子さん。見知らぬ同士だった3人の受講生ですが、今では講義後に情報交換をするほど親しくなりました。授業開放が新しい人間関係もつくってくれています

文部科学省「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」で熊大生が世界へ羽ばたく

文部科学省が官民協働で海外留学を支援する「官民協働海外留学支援制度」トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」第1期生は1700人もの応募者から106校・323人が合格。熊大生は8人もの合格者を出すことができました。今号ではその中の3人に、その成果を語っていただきました。

それぞれの目標に向かって海外へ

藤崎：僕は米国で家庭医学の専門医になるつもりです。そこで米国医師免許取得に必要な心理学や基礎医学を学びたくて留学を決めました。僕の故郷、鹿児島県の大隅半島には高齢化率が40%を超える地域があり、高齢者を支える家庭医になるために腕を磨く必要があります。いつかは、日本に帰って家庭医としての経験を活かせたらと思っています。留学先はイギリスでしたが、留学中にシカゴの研修にも参加しました。

元満：私はもともと理学部で、植物の幹細胞を研究しています。留学先はシンガポールの研究所でした。シンガポールはとも研究が進んで



左：元満文音 中：藤崎智礼 右：平実美加



▲友人たちとの会話で英語力を磨いたという藤崎さん(手前左)

アメリカで医師として学び、将来は故郷へ。

藤崎 智礼
医学部医学科6年。2014年9月からイギリス・リーズ大学へ留学、心理学の基礎や医学を勉強。米国の医師免許取得に必要なSTEP1～3のうち、STEP2までを取得。米国で専門分野を極め、将来は故郷鹿児島で地域医療に従事することが目標。



平：私は文学部で「持続可能性」をテーマに研究しています。これはCO₂排出量削減など環境問題、持続可能な経済活動、貧困や高齢化などの社会問題など非常に幅が広く多様な分野。私はどちらかというと、経済活動に関心を向けて活動してきました。

元満：これから留学する後輩たちも、挑戦することを恐れないでほしい。行動力が大事で、一歩外に出てみれば、自信につながる。平：でも最近は「トビタテ」の知名度が上がって、採用されるために計画を考える人もいます。それは本末転倒で、自分自身にやりたいことがあることが先決。テーマをしっかりと持ってほしい。

テーマをもって、一歩外へ後輩のみんな、「迷わず留学を！」

藤崎：今は国がお金を出してくれる時代。医師になるのに海外に行かなくてもいいと言われることもあったけど、もし昔の自分に会えるなら、「迷わず留学しろ！」って言います。

- ### 国際交流レポート (9月～11月)
- 9/7 ベトナム、カンボジアで海外短期調査及び研究交流プログラムを実施(17日まで)
 - 9/7 大学院社会文化科学研究科と法学部から学生11人が両国で大学訪問し学生交流を行いました。JICAプロジェクトの活動現場の視察やJETROでアセアン経済・貿易投資を学ぶなど、多くの知見を得ました。
 - 9/7 HIGOPプログラム、海外インターンシップを実施(22日まで)
 - 9/14 伝統医療を学ぶためにベトナムで実施されたインターンシップに14人の大学院生が参加しました。
 - 9/14 「平成27年度グローバル教育の推進に係る海外FD研修」をアルバータ大学(カナダ)で実施(25日まで)
 - 9/17 「第10回学生国際会議(I-CASIT)」をインドネシアで開催(18日まで)
 - 9/17 ◎KUMADAI TOPICS (本紙19ページ)を参照
 - 9/28 福岡、宮崎の外国人留学生170人を迎えてキャンパスツアーを実施。学モン都市熊本ツアー！
 - 10/13 大学院自然科学研究科、藩陽建築大学(中国)土木工程学院・交通工程学院と国際セミナーを実施(14日まで)
 - 10/13 部局間交流協定を結んでいる両部局間の国際セミナーを藩陽建築大学で実施し、同研究科より教員3人、学生6人が参加しました。両部局間の共同研究を促進する学術研究発表会および藩陽市の社会資本の見学を行いました。
 - 10/16 政策創造研究教育センター、ガバナンス学術会議を上海で開催
 - 10/16 同センターの部局間交流協定校である上海交通大学(中国)との共催により、政策創造に関するガバナンス学術会議を上海で開催し、本学から6人が研究発表を行いました。
 - 10/28 桂林理工大学(中国)との大学間交流協定調印式を本学にて実施
 - 10/29 安徽大学(中国)との大学間交流協定調印式を本学にて実施
 - 11/4 教育学部、カセサート大学(タイ)で出前授業を実施(11日まで)
 - 11/4 大学間交流協定校である同大学の工学部生30人とラボラトリスカール生30人を対象に、出前授業「手作りロボット講座」を実施しました。
 - 11/4 「第5回留学生と保健学系学生との交流会」を九品寺キャンパスで開催
 - 11/4 保健学系国際化推進委員会の主催で、「本学留学生と保健学系学生との交流会」(第5回)を九品寺キャンパスで行いました。本交流会は外国人とのコミュニケーションを通して、異文化の理解と英会話力向上のきっかけをつくることを目的に毎年開催され、留学生19人を含め学生・教職員合わせて74人が参加しました。
 - 11/20 パーミンガム大学、ダラム大学(英国)へ表敬訪問(19日まで)
 - 11/17 ブカレスト大学(ルーマニア)との大学間交流協定調印式



▲留学先ではダイビングにも挑戦した元満さん

平：私も「もがいて1年間、環境から経済まで幅広いサステイナビリティを学ぶために留学したのに、英語が分からなかったり、グループワークでうまく活動できなかったり。

元満：私も、留学先で、「君たちはできるつもりで来ているが、実は何もできないんだよ」と言われて悲しかった。でも、聞き直して「できないから技術を教えてください」と言ったら、その人が快く教えてくれるようになりました。藤崎：シカゴの研修で、模擬患者の診察をする場面があって、その人に「アジア人には診てもらいたくない」と言われて、動揺した



平 実美加
文学部コミュニケーション情報学科4年。2014年8月からイギリス・リーズ大学へ留学し自然環境や経済活動のサステナビリティを学ぶ。WEBヘルマークで、大手企業に持続可能性を広めるWEBマーケティング支援企業に就職予定。ビジネスを通して持続可能な社会の実現を目指す。

サステイナブル(持続可能)な社会づくりの実現のために。

ら米国での医師免許は取れない。僕は「私他の医師同様に医師免許を交付されています。アジア人だからといってヤブ医者とは限りませんよ」と。それでOKが出たことで、すごく自信がついた。

平：私の転機は、留学の終わりのころ、スウェーデンで開催されたサステイナビリティのイベントに参加したこと。語学の壁なんて関係なく、わくわくする社会づくりをしようとする前向きな学生たちがいっぱいいて。今まで、何を縮こまっていたらだろっ、と、俄然やる気が湧いてきました。



▲学生シンポジウム(スウェーデン)に参加した平さん(手前左)



▲文部科学省主催の留学成果報告会で藤崎さんは文部科学大臣優良賞、平さんは審査員特別賞を受賞し、原田学長から表彰状が授与されました。

教育学部

これまででもこれからも、
学んだすべてを子どもたちへ



矢部 彰人
Akito YABE

熊本大学教育学部附属
中学校
講師

教育学部中学校教員養成課程
社会科専攻
平成24年度卒

平成元年生まれ、熊本県熊本市
出身。熊本県立熊本北高等学校
卒業。大学卒業後、熊本大学
教育学部附属中学校の講師として
勤務。趣味は自転車・マラソン・
スポーツ全般・料理・お酒など
など。

熊大のココがイイ!

校内を歩けばさまざまな歴史
を感じることができるところ。
親身に指導して下さる先生
方や切磋琢磨しあえる仲間
がいること。

甲子園を目指した高校時代 顧問との出会いも夢の始まりに

高校時代は野球部に所属し、甲子園を目指して日々練習に励んでいました。部活を引退して進路のことを考えたとき、教師になりたいと思い、教育学部への進学を決めました。中学時代の部活顧問の先生との出会いや、自分の好きな社会科や野球を子どもたちに教えたいという思いがあったからです。

仲間と語り合いながら 乗りきった教育実習が良い思い出に

よく遊び、よく学んだ学生生活でした。いろんな経験をおことうと、四国を自転車一周したり、マラソンにチャレンジしたり。特に印象深いのが教育実習です。授業は生き物であることを体感し、授業づくりの難しさ・緻密さを学びました。遅い時間まで仲間たちと話し合いながら乗り切った実習は、きつかったけれど今ではとても良い思い出です。

先輩教師からも常に学ぶ姿勢で 来年からは熊本市の教諭に

現在は大学を出てすぐの私が、レベルの高い先生方と並んで教えることにプレッシャーを感じつつ、常に学ぶ姿勢で多くのことを吸収しようと心がけています。来年からは熊本市の教諭として、ここで学んだことを子どもたちのために発揮していきたいです。

熊大のココがイイ!
熊大のココがイイ!
熊大のココがイイ!

薬学部

携わる治験薬が世に出て、
患者さんを笑顔にする日を思う



小道 由木子
Yukiko KOMICHI

株式会社新日本科学PPD
臨床事業部(東京)
勤務

薬学部創薬・生命薬科学科
平成21年度卒
大学院薬学教育部博士前期課程
創薬・生命薬科学専攻
平成23年度修了

昭和62年生まれ、福岡県春日市出身。福岡県立春日高校から熊大へ。モニターとして創薬に携わりたいと思い現在の仕事を。現在は九州を離れ東京生活を満喫中。

熊大のココがイイ!

縦と横の繋がりが強い!
社会人になってからもその縁は
継続中です!

女性が活躍できる薬系の仕事に興味

高校生の頃は、将来、社会で活躍できる女性になりたいという思いが強かったです。薬系の仕事は女性が多く活躍しているイメージだったこともあり、興味を持ち始めたのが高校3年生でした。当初は薬剤師免許の取得も目指していましたが大学は研究コースに進みました。創薬に携わるには、仕事の視野が広がるいい選択だったと感じています。

社会人になっても続く 充実の人間関係を築いた6年間

大学6年間は多くの先生・先輩・同級生・先輩と仲良くさせてもらっていました。学部内での飲み会が多く、お酒の場での交流で学生生活がより充実したものになりましたし、社会人になった今でも仲良くしています。サークルや勉強、研究、バイトなどを乗り越えて卒業できたのは、周りの多くの人たちに出会えたおかげです。

治験に携わる仕事を担当 患者さんの笑顔のために

現在はモニターという治験に携わる仕事をしています。病院で患者さんのカルテを見て、元気になる様子が分かった時はとてもうれいです。その薬が世に出て、より多くの患者さんを笑顔にできることを想像するとワクワクします。これからもモニターとして多くの薬の誕生に携わっていきたいと思っています。

法学部

業務に欠かせない法の知識
常に六法や解説書で研鑽を積む



杉本 安奈
Anna SUGIMOTO

熊本地方検察庁
検察事務官

法学部法学科
平成21年度卒

昭和62年生まれ、熊本県上天草市出身。熊本県立東稜高等学校卒業後熊本大学法学部へ進学。趣味はおいしいもの探しとギター(少し前に独学で始めました!)

熊大のココがイイ!

個性豊かな友人や先生方に出会えること。それぞれの進路に応じた支援体制が充実していること。

ドラマを見て 法律関係の仕事に関心

高校生の頃に行政書士や検察官、司法修習生等を題材にしたドラマを見て、漠然とおもしろそうだなと感じていました。はっきり夢と言えるようなものはありませんでしたが、法律関係の職業に関心を持ち、法律の勉強をしてみたいと考え、法学部への進学を希望しました。

興味あることに時間を注いだ とても幸せな学生時代

友人との旅行やアルバイト、試験前には友人と集まって勉強と、とにかく自由で楽しい大学生活でした。3年生から専攻した刑法のゼミでは、授業での発表のために班のみんなで議論する時間が非常に楽しく、充実していました。純粋に自分の興味のあることに時間を注ぐことができるととても幸せな時間でした。

さまざまな法律業務の中で 今後の道を模索中

現在は、警察から送られてくる事件や証拠品の受理、罰金等の徴収を行っています。どの業務にも法律の根拠が不可欠であり、日ごろから六法を引いたり解説書を読んだり知識の習得に努めています。検察事務官には、内部試験を受けて検察官になる道もあります。一方で、事務官として幅広く検察の業務に携わっていく面白さもあり、今後自分はどういった方向に進むべきか、日々の業務を行いながら、現在も模索しています。

理学部

母校の研究促進を支える
URAという仕事に誇りと責任



黒木 優太郎
Yutaro KUROGI

熊本大学大学院先導機構
URA 推進室
(マーケティング推進部
研究推進ユニット)
勤務

大学院自然科学研究科
博士後期課程理学専攻
平成25年度修了

昭和61年生まれ、宮崎県宮崎市出身。宮崎県立宮崎北高等学校を卒業後、熊本大学理学部を経て熊本大学大学院へ進学。修了後、そのまま熊大へ就職してURAに。趣味はバイク。

熊大のココがイイ!

尊敬できる先生、頼れる先輩、良い仲間、素直な後輩。そういう人と会えるところです。

具体的な夢はなかったけれど、 理学を幅広く学びたいと理学部へ

高校の頃はこれといった夢はなく、漠然と獣医になることを考えていたように思います。今にして思えば、生物学が好きで、それに関わる仕事として獣医くらいしか知らなかったのですが、進学を決める頃には、理学についてもっと広く学びたいと考えるようになり、理学部へ進むことにしました。

遊びとバイト漬けの学部時代 多くの友人と出会えたのもこの頃

学部の頃は遊びとアルバイトに明け暮れていました。学費のために始めたアルバイトですが、バイト代が遊びに消えることも。同時に、多くの友人と出会ったのもこの時期です。修士・博士と進むにつれて遊びやアルバイトの時間は研究へ代わっていききましたが、友人たちとは変わらず仲が良く、お互いの存在が刺激になって、努力し合えたと思います。

学生、教員、職員とともに、 研究の発展に寄与したい

「URA」という職業はまだ定義もあやふやですが、文科省によれば「研究開発内容について一定の理解を有しつつ、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等をマネジメントする人材」を指します。私は、学生・教員・職員という熊大の全員と親身に仕事のできる人のことだと理解しています。熊大の研究を少しでも手助けできればとがんばっています。

※URA
University Research Administrator (特定専門業務職員)

卒業生 ジャーナル

GRADUATES'
JOURNAL



本学の卒業生たちの“今”に迫る

「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍する

先輩たちのこれまでの歩みや苦勞、

そして喜び、楽しみなどを通じて

精励するその姿をご紹介します。

工学部

モノづくりを支える日々
女性技術者として奮闘中



一木 愛
Ai ICHIKI

株式会社東芝
東芝電力システム社
京浜事業所(神奈川)
勤務

大学院自然科学研究科修士課程
機械システム工学専攻
平成24年度修了

昭和63年生まれ、福岡県福岡市出身。福岡県立福岡高等学校卒業後、熊本大学工学部を経て熊本大学大学院へ進学。現在は東芝電力システム社京浜事業所に所属。

熊大のココがイイ!

自由でのびのびと生活ができ、多くのことにチャレンジできるので毎日が勉強と発見の連続です。

漠然と考えていた 「やりがいのある仕事をしたい」

高校の頃は、将来の自分や職業のイメージが実感できず具体的な方向を決めきれずにいました。ただ、漠然とやりがいのある仕事が見たいとは思っていたので、女性技術者になり日本のモノづくりを支えることができたらやりがいがあるだろうと思い、機械システム工学科に進学しました。

ソーラーカー部で 設計・製造にも携わる

学部の頃は女性は私一人で、男子学生たちとおいしいものを食べに行ったりゲームをしたりして遊んでいました。研究室配属後はソーラーカー部に入り、ボディの設計から製造まで行ったり、海外での学会発表に参加したりと、研究以外のことも没頭した毎日でした。教授、准教授に研究以外のことも教わり、とても楽しい研究生活を送りました。

多様な部品や職種に 毎日が勉強と発見の連続

現在は、発電するために必要な蒸気タービンの動翼・静翼の製造技術・生産管理に携わっています。製造技術では、設計通りにモノができるための指示や、外注先への技術指導、また生産管理では、素材メーカーとのやりとり、入材から完成までの工程を管理しています。さまざまな部品や職種にチャレンジできるので毎日が勉強と発見の連続です。

文学部

スマホゲームのプロデュース
世界中に最高のコンテンツを



乗峰 愛美
Manami NORIMINE

株式会社バンダイナムコ
エンターテインメント(東京)
勤務

文学部コミュニケーション
情報学科
平成23年度卒

平成元年生まれ、宮崎県都市出身。宮崎県立都城泉ヶ丘高校卒業後、熊本大学文学部へ進学。平成24年、(株)バンダイナムコゲームス入社。趣味は天体観測・ゲーム・漫画。趣味を活かし、毎日楽しく仕事しています。

熊大のココがイイ!

文学部コミュニケーション情報学科
平成23年度卒

ドラマをきっかけに マーケティングに興味

幼い頃からピアノを習っており、高校時代は漠然と音大に進みたいという希望がありました。また天体観測も好きで、物理学者になりたいという思いも。しかし大学受験を前に、どちらの夢も自分に適性がないと挫折しました。そんなとき、ドラマがきっかけで広告クリエイターに憧れ、マーケティングを学びたいと思うようになり、進学先を決めました。

心に残る、学科メンバーと過ごした 全力投球の日々

サークルやバイトを通して多くの出会いがありました。一番印象に残っているのは、学科メンバーと過ごした濃い日々。グループワークが多く、個性豊かな仲間たちと勉強も遊びも一生懸命やりました。今でもお互いを高め合えるいい関係です。自分の好きなことに費やす時間も多くなり、ゲームにどっぷりはまったことが現在の仕事につながりました。

海外営業で見た、ゲームで遊ぶ 人々の笑顔が原動力!

入社後はAM機器の海外営業を担当。実際に各国へ向かい、製品の売り込みをしていました。現在は、キャラクターを用いたスマートフォンゲームのプロデュース職。世界約30カ国で配信・運営を行っています。海外に出かけた時に見た、当社のゲームで遊ぶ現地の方々の笑顔が、今も私の仕事の原動力です!

医学部

医学物理士の資格を取得
進歩著しい技術に日々研鑽



堀 大輔
Daisuke HORI

日本赤十字社長崎原爆病院
診療放射線技師

医学部保健学放射線技術科学専攻
平成19年度卒
大学院保健学教育部修士課程
保健学専攻
平成21年度修了

昭和60年生まれ、長崎県諫早市出身。長崎県立諫早高等学校を卒業後、熊本大学医学部保健学科を経て、同大学院へ進学。大学院終了後は、日本赤十字社長崎原爆病院で診療放射線技師として勤務。趣味はランニング。

熊大のココがイイ!

先生方が教育熱心で、研究環境が充実しているところ。

幼い頃の憧れを忘れられず 医療の道を目指す

母親が看護師ということもあり、医療関係の職業に対して漠然とした憧れを抱いていました。教師の道へ進もうとした時期もありましたが、幼いころに抱いた憧れを捨てきれず熊本大学医学部保健学放射線技術科学専攻への進学を志しました。

記憶に残る、教官や仲間と 交わした研究談義

学部生の頃は、友人と天草まで昼夜を問わず釣りに行ったり、誰かの家に集合して飲み会などを開催したりして、学生生活を満喫していました。大学院進学後は、研究漬けの毎日。家で研究室を往復するだけでしたが、指導教官やゼミの仲間たちと研究について話す時間が楽しかったことを覚えています。

進歩する技術に日々研鑽 難しいけれど、やりがいのある仕事

卒業後は、地元の病院へ就職し、平成25年に医学物理士の資格を取得しました。以前はレントゲンやCT・MRIなどの撮影を行っていましたが、資格取得後は放射線治療室で患者さんの治療や、治療装置等の品質管理などの仕事を担当しています。放射線治療は近年進歩が著しく、今でも勉強する毎日ですが、患者さんにより良い医療を提供するためにがんばっています。難しいことも多いですが、やりがいのある仕事です。

REPORT

「～くまもと地方産業創生センター設置～“オール熊本”で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム(COC+)キックオフシンポジウム」を開催しました

11月4日(水)、文部科学省平成27年度大学教育再生戦略推進費「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」への採択を受け、「～くまもと地方産業創生センター設置～“オール熊本”で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム(COC+)キックオフシンポジウム」を開催しました。文部科学省高等教育局大学改革官の山口良文氏、熊本県副知事の村田信一氏による挨拶及び株式会社日経BP特命編集委員の宮田満氏による「地方創生とイノベーション」と題した特別講演が行われ、続いて「地方創生における教育機関の役割」をテーマにしたパネルディスカッションでは、COC+に参加する7大学の学長及び高専校長がパネリストとして登壇し、活発に意見を交わしました。

当日は大学関係者、学生および一般市民など約

250名が参加し、くまモンも登場して、COC+についてクイズ形式で理解を深めるコーナーもあり、シンポジウムは盛会のうちに幕を閉じました。

これに先立ち、10月29日、「平成27年度第1回熊本地方COC+推進協議会」が熊本大学で開催され、各事業協働機関の代表が出席し、今後の事業の進め方及びスケジュールなどについて意見交換を行いました。



団結して握手を交わす事業協働機関代表者



平成27年度第1回熊本地方COC+推進協議会の様子(10月29日)

REPORT

第7回熊本大学政創研公共政策コンペ「チャレンジ!熊本」を開催しました

政創研公共政策コンペを、10月25日(日)に工学部百周年記念館において開催しました。

第7回を迎える今回は、「チャレンジ!熊本」をテーマに過去最多の16チームがエントリーし、新しい奨学金制度、大人の修学旅行都市、ヒーリングマップを用いた癒しの循環、花火大会における交通政策、自転車走行マナー向上、ショートカットキーを用いた業務改善など様々な提言がなされました。コンペには、学生や若手自治体職員など多様なメンバーが参加されてい

ます。本年度は、青山学院大学の学生チームのエントリーもあり、若者の投票率向上に向けた提案もなされました。

最優秀賞(熊大賞)は、救急車の適正利用の促進～市民と観光客のための「くまもと街なか保健室」を提案した Funky MW(熊本市役所職員チーム)が受賞しました。熊大生チームでは、花火大会における交通政策を提言した学生チーム、自転車走行マナー向上の政策提言をおこなった学生チームが熊本市賞、市民賞をそれぞれ受賞しました。



ポスターを用いてプレゼンテーションを行う様子

REPORT

東京オフィスセミナー、関西オフィスセミナーを開催しました

首都圏と関西圏の一般の方を対象に、熊本大学への理解を深めていただくため、平成27年11月23日(月・祝)に「東京オフィスセミナー」を、平成27年11月29日(日)に「関西オフィスセミナー」を開催しました。

今回、東京では「天然物創薬のフロンティア」、関西では「健康長寿の延伸に向けての挑戦」と題し、薬学・医学分野の最先端の研究をテーマに講演が行われ、参加者は、身近な話題として熱心に耳を傾けていました。

熊本大学は、県外の拠点として、東京と大阪に、それぞれオフィスを設置し、情報

発信などを行っています。

また、本セミナーは、毎年テーマを変え

開催していますので、次回も多くの方のご参加をお待ちしています。



東京オフィスセミナー会場の様子



関西オフィスセミナー会場の様子

REPORT

平成27年度「熊大歌留多」イラストコンテスト表彰式を開催しました

10月28日(水)、「熊大歌留多」イラストコンテスト表彰式を開催しました。

この取り組みは、平成24年度及び25年度に行われた「熊大歌留多読み札」コンクールにおける、5,666の応募作品から選ばれた44作品の中に読み込まれている、本学の魅力や数々の資源(五高記念館などの歴史的建造物、KUMADAIマグネシウム合金などの先端的研究、夢科学探検などの地域貢献等)のイラストを募集し、絵札にすることで「熊大歌留多」の完成を目指すものです。

昨年度に引き続き、残りの読み札10句(え・こ・ぬ・へ・ほ・ま・め・や・ゆ・れ)について募集を行ったところ、51作品の応募があり、審査の結果、最優秀賞・優秀賞・入選・特別賞として、20作品が選ば

れました。最優秀賞には「本荘の 緑豊かな病院に 命をつなぐ 心ありけり」を描いた作品が選ばれ、今回選ばれた作品の中から、最優秀賞・優秀賞・入選の10作品が絵札として採用されます。

このたび、絵札となる44作品が揃いましたので、今後、「熊大歌留多」として完成させ、貴重な広報資源として、本学の歴史、環境、教育研究活動、伝統行事などを、より多くの方に知っていただくために活用する予定です。



最優秀賞作品

作者 ともK(職員)



REPORT

第10回学生国際会議(ICAST 2015 Surabaya)を開催しました

大学院自然科学研究科主催「第10回学生国際会議」(ICAST)をスラバヤ工科大学(インドネシア)において開催しました。ICASTは学生により運営される国際会議であり、英語による研究発表や討論により学生の実践力及び英語運用能力を強化し、また海外からの学生との交流により国際感覚の醸成に寄与するものとして、平成20年より毎年開催してきました。今年は熊大からの参加者25名に加え、海外(インドネシア、中国、イギリス)から約110名の学生を迎え、9月17日(木)、18日(金)の

日程で、口頭発表89件、ポスター発表28件が英語で行われました。また、ICAST学生運営委員会を組織し、オープニングセッションを含めた各セッションの司会進行、交流パーティの企画及び進行等も学生により執り行われ、有意義な国際会議となりました。19日(土)に行われたフィールドトリップには、約70名が参加し交流を深めました。

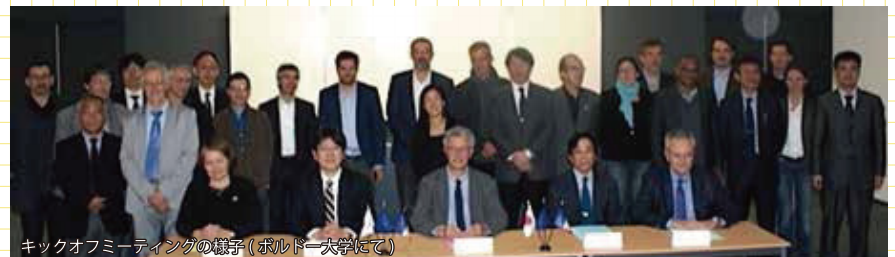


REPORT

キラルナノ材料に関する日仏国際共同研究室を設置しました

この度、大学院自然科学研究科研究グループとボルドー大学研究グループとの超分子化学分野での10年以上にわたる共同研究と人材交流が結実し、フランス国立科学研究センター(CNRS)とボルドー大学ほか計5機関の協定のもと、キラルナノ材料の開発に関する日仏共同研究室(LIA-CNPA: Laboratoires internationaux associés - Chiral Nanostructures for Photonic Applications)が設置されました。

キックオフミーティングが開催され、本学から代表研究者の伊原教授、楡山自然科学系国際共同研究拠点長らが参加して、調印式および記念講演会を行いました。11月には、日仏研究メンバーによる研究提案がJST-ANR「分子技術」(国際科学技術共同研究推進事業)に採択され、当該分野の研究がさらに加速されます。3月に締結されたボルドー大学とのダブルディグリープログラムへの学生受け入れを含め、ボルドー大学との学術交流、人材交流、学生交流の強化が期待されます。



キックオフミーティングの様子(ボルドー大学にて)

REPORT

ホームカミングデー「地下の文化財散歩」を実施しました

10月31日、埋蔵文化財調査センターではホームカミングデーの一環として「地下の文化財散歩」を実施し、卒業生・大学関係者11名の参加がありました。

散歩では、黒髪南地区で過去に発掘調査した4ヶ所をめぐり、それぞれの場所でセンター職員が、縄文時代の土器や人骨、奈良・平安時代の「國」文字の印、熊本工業高等学校初代本館などについて説明しました。

白川沿いにある展示室では、常設展示とともに、開催中の特別展「速報!遺跡の上の熊本大学2015」の解説を行いました。「工友寮」(工学部の前身、熊本高等工業学校時代からの学生寮)で使用された食器類の展示では、往時を知る方々から懐かしむ声が聞かれ、食器類は創設当時(明治時代)に遡るのではないかとのご指摘もありました。

センターでは地域と熊本大学の歴史を物語る発掘成果を常時公開しています(速報展は本年度末まで)。お気軽にお立ち寄りください。



縄文土器出土地点での解説風景

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.3 2 (平成27年9月1日～平成27年11月30日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約6億2745万円(平成27年11月30日現在)のご寄附をいただき、臨床医学教育センター建設や本学学生の留学支援、課外活動支援、60年史編纂事業等、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成27年9月1日から平成27年11月30日までの間に入金を確認させていただきました個人676名、10法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様のご更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者の皆様

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※〔 〕内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

Table with 4 columns of names and amounts. Includes entries like 芳賀 義雄 (405) 熊杏会 (300), 佐藤 泰生 (80) 清水 円輝 熊本大学工業会東京支部(山水会) 熊杏会荒尾支部, etc.

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者の皆様

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※〔 〕内の数字は、累計寄附回数〔回目〕です。

Table with 4 columns of names and counts. Includes entries like 相本 太刀夫 [2], 赤坂 政紀 [2], 赤星 宏輝 [7], 粟國 敦男, etc.

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人 365 名

REPORT 「第2回熊本大学九州連合同窓会」に215名が参加

第2回熊本大学九州連合同窓会が、平成27年10月3日(土)ホテルセントラザ博多において、福岡県内の同窓生など215名の参加を得て開催されました。

田学長や杉山新治氏からの講演が行われ、引き続き開催された交流会では、参加者は世代や学部を超えて絆を深めました。会の最後には、現役学生の応援団団長とともに全員で『五高寮歌』を熱唱し、盛況のうちに閉会となりました。



安田宏正 九州連合同窓会会長



平成27年度『女性研究者研究活動支援事業(拠点型)』シンポジウムを開催しました

10月26日(月)、本学は女性研究者研究活動支援事業(拠点型)の一環として、「グローバル共生社会～女性リーダーを育む環境を考える～」をテーマに、熊本学園大学でシンポジウムを開催しました。基調講演では「女性リーダーの活躍～ドイツと日本の比較～」について、ミラ・パウアサックス氏(ドイツ研究振興協会日本代表部)にご講演いただきました。また、パネルディスカッションでは、パネリストとして、甲斐隆博氏(肥後銀行頭取)、中園三千代氏(熊本県民生活局長)、中山峰男氏(崇城大学長)や原田信志学長が加わり、女性が社会で活躍し、女性リーダーを育成するための方策について、大変活発な議論が交わされました。参加者からは、「ドイツにおける女性研究者割合向上の施策を聴けて、日本の女性活躍推進施策の参考になった」、「女性がリーダーとして活躍するには、女性も男性も意識改革が必要である」などの感想が寄せられました。



パネルディスカッションの様子



Flat Café (フラットカフェ) ～ For Local Activation ～を開催しています

みんな、「ふらっと」立ち寄って「フラット」な関係で地方の活性化に向けて話をしませんか?

熊本ならではの学びや、地域の課題をテーマにして様々な立場の人が対話を行う、そんなカフェ形式の参加型講演会を本年度から開催しています。店主は大学の研究者、大人から子供まで、直接体験して、ふれあいながら、大学を身近に感じてもらうための機会づくり、ご好評をいただいています。

さあ、コーヒー片手に語りましょう! みなさまのご来店をお待ちしております。

【対象】興味をお持ちの方、どなたでも!(参加費無料、各回20名程度) ※当日参加多数の場合には、席に限りがあるため先着順となります。【問い合わせ先】政策創造研究教育センター TEL:096-342-2043 E-mail:seisoken@kumamoto-u.ac.jp 【URL】http://www.kumamoto-u.ac.jp/syakairenkei/chikiirenkei/news http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/

【開催日時・場所】随時開催(年間10回ほど) ※くまもと森都心プラザなどで土・日に開催。詳細は以下ホームページやフェイスブック、チラシ等でお知らせします。



HIGOプログラムインターンシップ報告会を開催します

医学・薬学を学び、社会で活躍できる博士を育てる大学院 HIGO プログラム。学生たちが国内外の企業や行政機関で行ったインターンシップの成果を発表します!



【開催日時・場所】平成28年2月12日(金)13:00～熊本大学医学総合研究棟3階講習室【対象】どなたでも(参加費無料)【問い合わせ先】教育研究推進部リーディングプログラム推進チーム TEL:096-373-6832 E-mail:higo-program@jimu.kumamoto-u.ac.jp 【URL】http://higoprogram.jp/ https://www.facebook.com/higoprogram.jp



平成27年度熊本大学テレビ放送公開講座「熊大チャンネル2016～開けよう!知の宝石箱」

今年度のテレビ放送公開講座は15番組の6回シリーズ。熊大「赤レンガ」(国の重要文化財)の歴史や、地域をフィールドに活動する先生の研究を取り上げますので、お見逃しなく! 放送後もKABウェブサイト(海外向け英語字幕付き)にてご覧いただけます。

【放送日時】KAB 熊本朝日放送にて12/19～1/30の間の毎週土曜日、初回12/19のみ午後3:30～3:45、以降は午後2:30～2:45の放送です。(放送後はKAB特設サイトにも随時掲載)【対象】テレビ(熊本朝日放送)、インターネットでの視聴が可能な環境にある方。

【放送予定】#01 三澤 純 先生 「新発見! 地域に眠る古文書を読む」 #02 松田 博貴 先生 「海に浮かぶ博物館 天草を再発見」 #03 伊藤 重剛 先生 伊東 龍一 先生 「潜入! 熊大歴史ミュージアム」 #04 河村 洋子 先生 「人の心を動かす! エンターテインメントエデュケーション」 #05 溝上 章志 先生 「日本一便利な町に! 公共交通のグランドデザイン」 #06 後藤理英子 先生 「医療の現場から男女共同参画社会を考える」

【問い合わせ先】政策創造研究教育センター(生涯学習教育部門) TEL:096-342-2044 E-mail:seisoken@kumamoto-u.ac.jp 【URL】詳細は以下サイトでご確認いただけます。KAB特設サイト http://www.kab.co.jp/kumadai/ Facebook ページ「熊本大学で生涯学習!」 政創研 web http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/

熊本大学テレビ公開講座 熊大チャンネル2016 開けよう! 知の宝石箱 12月19日～1月30日 毎週 午後2:30～2:45 12月23日・2月6日 無料(視聴料) 15:55～2:25 (放送時間) 15:55～2:25 (収録時間) 15:55～2:25 (収録時間) Happy!KAB



いくつになっても**学びたい!** 熊本大学で**生涯学習!**

次学期は
3月初旬頃から
募集開始です!

学生と一緒に授業が受講できる
授業開放科目

4月以降に
順次開講予定です!

趣味を深めたりスキルアップを目指そう!
公開講座

最先端の研究成果が学べる**無料講座**
知のフロンティア講座

今年も放送決定!
動画配信でも
視聴できます!

テレビ・インターネットで気軽に受講できる
放送公開講座

熊本大学では、地域に開かれた大学として、
知的好奇心がくすぐられる様々な学習機会を皆様へ開放しています。
「学びに年齢はありません。遅すぎることはないんです」
熊本大学はあなたの学びたい気持ちを応援します。

資料のご請求・お問い合わせ

TEL.096-342-2044 (受付: 平日 9時~17時)

E-mail manabou@jimu.kumamoto-u.ac.jp

あなたにピッタリの
講座を見つけて
くださいね!

生涯学習イメージキャラクター
しげきくん



最新情報はFacebookページで配信中!
<https://www.facebook.com/kumadaishogai>

